



2024年を振り返り「原油価格や為替の変動に一喜一憂させられた1年だったが、業績面では今期の目標達成が見えつつある」と胸をなで下ろす。目標値を「少し背伸びをしても届かない数値」に設定しているだけに安堵（あんど）感は一とさわ大きい。その数値設定の意図は「仕事の進め方を抜本的に変えてほしい」からであり、「社員

が非常に努力している」ことも理解している。

事業の2本柱は工事とアスファルト合材の製造販売。工事は「今後大きくは変わらない。新設はそれほど増えないだろうが、既に舗装されている100万キ以上の道路の維持修繕は一定量が見込める」と展望する。一方、製販事業は出荷量がピーク時の半減以下となっており、

お客さまはコストだけでなく品質やサービスなどを含めて判断していることが分かる。この経験は大きな自信になったのではないかと語る。

今後、3本目の柱にしたいのがバイオマス燃料の販売だ。現在は自社工場での活用を主目的に製造しているが「できるだけ早く外販するところまで持っていきたい」と意欲を示す。ただ

0%）対応電力への完全移行」とともに推進する。

同社は25年度から道路建設業界の先陣を切って民間工事を含む原則全ての現場で完全週休2日制の導入に踏み切る。土曜日と日曜日、祝日は現場閉所にする考え。ただ、工場など平日に工事が行えず、休日指定の工事については例外として認める方向で検討している。週休3日制という企業もある時代であり、

働きやすさ・魅力 No.1に

り、今期はさらに減少する見通しだ。そつした中で原油価格の高騰や円安が進んだ際の価格転嫁が経営に大きく影響を及ぼす。「『価格を転嫁すると顧客が減る』という考えもあるが、実際は価格転嫁しても当社のシェアは大きく変わらなかった。

「やってみて、簡単ではないことがよく分かった」とし、「少し時間はかかるが、根気強く仕上げていきたい」と力を込める。バイオマス燃料の活用は脱炭素の取り組みでもあり、「中温化合材の製造・販売」「RE100（再生可能エネルギー100

このままでは働き方だけでなく人材採用にも大きく影響する。休めない企業は選ばれない。さまざまな課題も出てくると思いますが、失敗を恐れずに挑戦したい」と強調する。

3月には創業100周年の節目を迎える。働きやすさ・魅力ナンバーワン企業を目指し、積極果敢にさまざまな取り組みを進める構えだ。

